

# 第1章 大学入学までの実態

## 第1節 高校での学習と生活について

十河直幸

大学入学までに経験したこと

卒業した高校について

高校生活で力を入れていたこと

高校での学習の様子

高校での「総合的な学習の時間」などへの取り組み

高校での学習時間

授業以外での学習機会

## 第2節 大学進学までの受験について

望月由起

受験経験(中学受験・高校受験)

大学進学を意識し始めた時期・  
受験対策を始めた時期

大学受験対策

受験する大学・学部決定の際に重視した点

大学受験のときの入試方法

進学先の大学・学部決定時期

序章 大学生調査の実施とその活用に向けて

▶ 第1章 大学入学までの実態

第2章 大学生活について

第3章 大学での学習

第4章 大学卒業後の進路

第5章 大学生の意識

資料編 調査票見本、基礎集計表

## 第1節 高校での学習と生活について

### 大学入学までに経験したこと

大学入学までに経験したこととして「浪人をした」が17.7%と最も多く、性別では男子、学部系統別では「保健その他」で浪人経験者が多い結果となった。一方で「他の高等教育機関（他の大学・短大、専門学校など）に入学した」「海外留学した」など、大学への編入学や高校時代の留学経験はわずかであった。

#### Q

現在の大学に入学するまでの経験として、あてはまるものすべてをお選びください。

現在の大学生は、大学に入学するまでの過程でどのような学習・生活体験を経てきたのだろうか。現在の大学に入学するまでの、浪人、編入学、留学の経験などについてたずねた。図1-1-1をみると「浪人をした」が17.7%と最も多く、「大学全入」時代といわれているものの、浪人を経て入学してくる学生が一定の割合で存在していることが確認できる。一方、「他の高等教育機関（他の大学・短大、専門学校など）に入学した」（3.1%）、「海外留学した」（2.4%）と、大学への編入学や高校時代の留学経験は1割にも満たなかった。

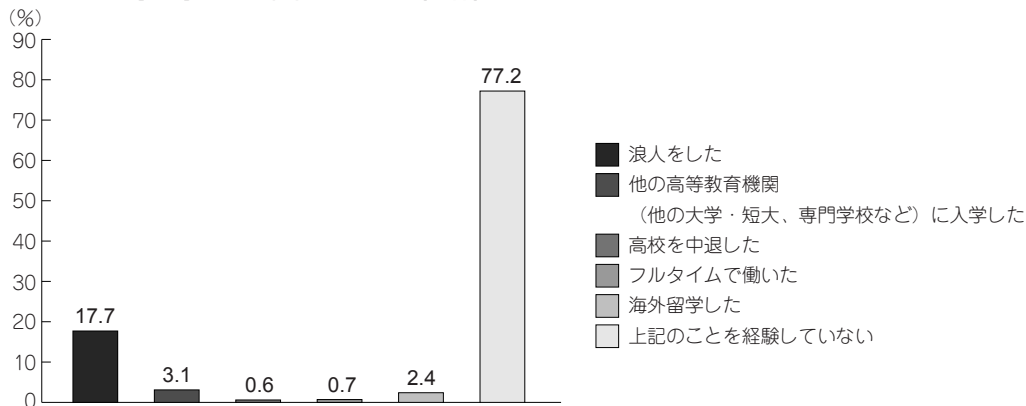
図1-1-2で性別での違いをみると、「浪人をした」（男子21.9%>女子11.4%、以下同）で、男子の比率が高く、逆に「海外留学した」（1.7%<3.5%）では女子の比率が男子に比べやや高い結果となった。

次に学部系統別での違いを表1-1-1に示した。「保健その他」で「浪人をした」が27.6%と、全体に比べ10ポイント程度高い結果となった。「保健その他」には、医学部、歯学部などが含まれており、これらの学部では他の学部と比べて現役での入学が難しいという傾向が確認できる。

一方で「人文科学」では、「浪人をした」が11.8%と全体に比べ5ポイント程度低いが、これは「人文科学」で女子の比率が高い（女子68.1%、男子31.9%、巻末の基礎集計表を参照）ことも影響していると考えられる。また「人文科学」では「海外留学した」が5.5%であり、他の学部系統に比べて若干比率が高いことが確認できる。

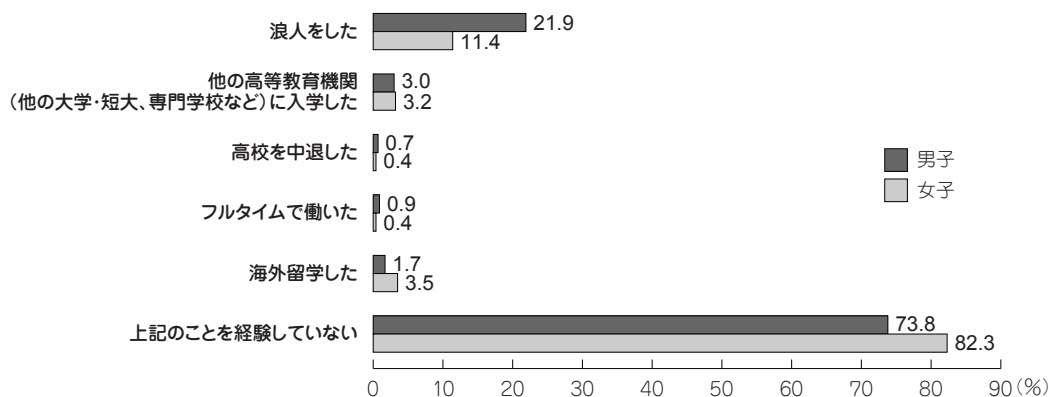
なお「他の高等教育機関（他の大学・短大、専門学校など）に入学した」は、性別、学部系統別とも差はみられなかった。

図1-1-1 大学入学までに経験したこと（全体）



注1) 複数回答。  
注2) サンプル数は4,070名。

図1-1-2 大学入学までに経験したこと（性別）



注1) 複数回答。  
注2) サンプル数は男子2,439名、女子1,631名。

表1-1-1 大学入学までに経験したこと（全体・学部系統別）

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)
浪人をした	17.7	<u>11.8</u>	19.2	17.6	20.8	<u>27.6</u>	14.7
他の高等教育機関 (他の大学・短大、専門学校など) に入学した	3.1	2.5	3.0	3.4	2.4	3.9	4.9
高校を中退した	0.6	1.0	0.5	0.7	0.8	0.0	0.0
フルタイムで働いた	0.7	0.6	1.0	0.6	0.0	0.0	0.7
海外留学した	2.4	5.5	2.2	1.4	1.6	0.4	0.7
上記のことを経験していない	77.2	80.0	76.0	78.0	75.2	<u>70.0</u>	81.1

注1) 複数回答。  
注2) 学部系統の詳細はp.6を参照。  
注3) 学部系統別の「その他」は省略した。  
注4) ○は全体よりも5ポイント以上高いものを示す。  
注5) □は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。  
注6) ( )内はサンプル数。

## 卒業した高校について

卒業した高校の卒業後の進路状況は、「国公立大学や難関私立大学への進学者が多い」「中堅レベルの大学への進学者が多い」の比率が高く、いわゆる「進学校」に在籍していた比率が高かった。また、卒業した高校の校則や学校行事、学習・進路指導などの特徴についてたずねたところ、「学校行事では生徒が率先して行っていた」「卒業後の進路選択について、学校からの積極的なすすめがあった」に「あてはまる」と回答した比率が半数を超えた。

Q

- あなたが卒業した高校では、卒業後どのような進路を選ぶ人が多いですか。もっとも近いものを1つお選びください。
- あなたの卒業した高校の特徴について、それぞれ近いもの1つをお選びください。

今回の調査対象となった大学生に、卒業した高校の卒業後の進路状況、高校の雰囲気・様子についてたずねた。ただし大学生が高校時代を振り返るといった時間的な間隔があること、また回答者の主観的な評価であることに十分に留意する必要がある。

図1-1-3は、自身が卒業した高校の卒業後の進路状況について示した。卒業後の進路として「中堅レベルの大学への進学者が多い」(43.9%)、「国公立大学や難関私立大学への進学者が多い」(42.8%)が多く、卒業した高校がいわゆる「進学校」であることが確認できる。

また卒業した高校を、設置区分と3年制・中高一貫で表1-1-2のような出身高校種別に分け、それぞれの卒業後の進路状況を示した。なお以降の分析では「公立・中高一貫」「国立・3年制」「国立・中高一貫」はサンプル数が少ないため、あくまでも参考値として扱い、「公立・3年制」「私立・3年制」「私立・中高一貫」の結果を中心に検討する。表1-1-2によると、「私立・中高一貫」では「国公立大学や難関私立大学への進学者が多い」が58.4%と全体に比べ15.6ポイント高く、「私立・3年制」では「中堅レベルの大学への進学者が多い」が57.0%と全体に比べ13.1ポイント高い。一方、「公立・3年制」はいずれの項目も全体とほぼ同じ比率であった。先に述べたように、あくまでも回答者の主観的な評価であることに留意する必要があるが、私立の中高一貫校では難関大進学を目指している

生徒が多いことが推測される。

さらに学部系統別での卒業後の進路状況を表1-1-3に示した。これによると、「国公立大学や難関私立大学への進学者が多い」は、「保健その他」(59.0%)、「教育」(56.6%)で、全体より15ポイント前後高い結果となった。前項で「保健その他」では浪人を経て入学してくる比率が他の学部系統と比べて高いことを確認したが、この結果から、いわゆる「進学校」のなかでも難関大を目指す生徒が多い高校を卒業し、大学生となった者が多いことがうかがえる。

次に、校則や学校行事、学習・進路指導などの高校の特徴についてたずねた結果を図1-1-4に示した。「学校行事では生徒が率先して行っていた」に「あてはまる」と回答した比率は67.7%（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%、以下同）であり、「卒業後の進路選択について、学校からの積極的なすすめがあった」(51.9%)とともに半数を超えている。一方で、「家庭学習や授業の予復習について、学校で厳しく指導されていた」(36.2%)は比較的少ない結果となった。

さらに表1-1-4で出身高校種別での違いを示した。表1-1-2と同様にサンプル数の多い「公立・3年制」「私立・3年制」「私立・中高一貫」を中心にみると、「学校行事では生徒が率先して行っていた」（「公立・3年制」75.1%＞「私立・中高一貫」59.7%＞「私立・3年制」47.5%、以下同）と「校則が自由な学校だった」(53.3%＞

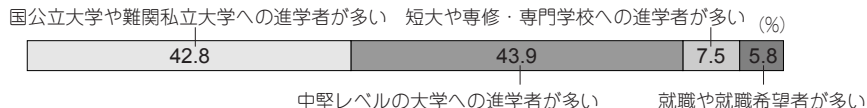
34.6% > 30.4%) で違いがみられた。

以上の結果から、卒業した高校に対して「校則がゆるやかで、学校行事は生徒が率先する」といった印象を「公立・3年制」の卒業生は多く持っているが、「私立・3年制」ではやや少ないという傾向がみられた。

しかし、これは高校を卒業してからの時間的な間隔、高校卒業者のうち「大学進学者」の主

観的な評価であること、また同じ高校出身者であっても、高校に対する印象はそれぞれ異なることも十分考えられ、一般化することは難しいものの、「卒業生」が出身校をどのように評価しているかの把握は、高校のみならず大学においても、自校の教育成果を検証するうえで重要なことと考えられる。

図1-1-3 卒業した高校の進路状況 (全体)



注) サンプル数は4,070名。

表1-1-2 卒業した高校の進路状況 (全体・出身高校種別) (%)

	全体 (4,070)	公立		私立		国立	
		3年制 (2,521)	中高一貫 (25)	3年制 (712)	中高一貫 (705)	3年制 (50)	中高一貫 (26)
国公立大学や難関私立大学への進学者が多い	42.8	42.6	40.0	25.4	58.4	64.0	92.3
中堅レベルの大学への進学者が多い	43.9	42.2	48.0	57.0	39.6	22.0	7.7
短大や専修・専門学校への進学者が多い	7.5	8.4	4.0	10.5	1.6	2.0	0.0
就職や就職希望者が多い	5.8	6.7	8.0	7.0	0.4	12.0	0.0

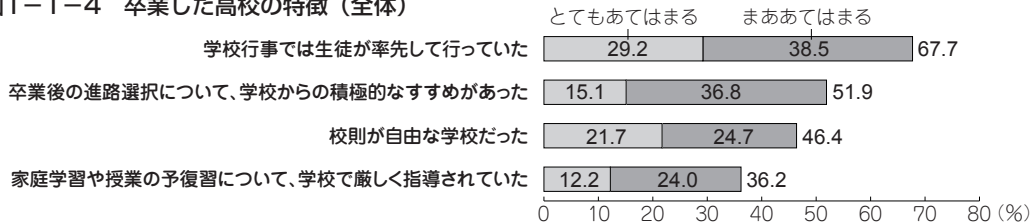
注1) 出身高校種別の「海外」「その他」は省略した。 注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
注3) 〃は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。 注4) ( )内はサンプル数。

表1-1-3 卒業した高校の進路状況 (全体・学部系統別) (%)

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)
国公立大学や難関私立大学への進学者が多い	42.8	41.6	40.9	39.6	51.2	59.0	56.6
中堅レベルの大学への進学者が多い	43.9	44.0	45.5	45.0	39.2	36.0	36.4
短大や専修・専門学校への進学者が多い	7.5	9.1	7.9	6.7	7.2	4.6	4.2
就職や就職希望者が多い	5.8	5.4	5.7	8.7	2.4	0.4	2.8

注1) 学部系統別の「その他」は省略した。 注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
注3) 〃は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。 注4) ( )内はサンプル数。

図1-1-4 卒業した高校の特徴 (全体)



注) サンプル数は4,070名。

表1-1-4 卒業した高校の特徴 (全体・出身高校種別) (%)

	全体 (4,070)	公立		私立		国立	
		3年制 (2,521)	中高一貫 (25)	3年制 (712)	中高一貫 (705)	3年制 (50)	中高一貫 (26)
校則が自由な学校だった	46.4	53.3	32.0	30.4	34.6	76.0	100.0
学校行事では生徒が率先して行っていた	67.7	75.1	56.0	47.5	59.7	82.0	96.1
家庭学習や授業の予復習について、学校で厳しく指導されていた	36.2	36.1	40.0	34.4	40.9	20.0	0.0
卒業後の進路選択について、学校からの積極的なすすめがあった	51.9	51.5	64.0	53.2	54.9	36.0	7.7

注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。 注2) 出身高校種別の「海外」「その他」は省略した。  
注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
注4) 〃は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。 注5) ( )内はサンプル数。

## 高校生活で力を入れていたこと

高校生活で力を入れていたことを平均すると、「勉強」3.6割、「友だちとの交遊」2.5割、「部活動」2.4割、「アルバイト」0.4割、「その他」1.1割であった。また1割以下とする回答が「アルバイト」91.1%、「部活動」44.0%であった。大学進学者において、高校生活での「アルバイト」はほとんど経験がないこと、また部活動の参加状況に学生間で差があることが確認できる。

### Q

あなたは、高校生活で以下のことがらについて、どのくらい力を入れましたか。合計が10割になるように教えてください。

大学生に高校生活で力を入れていたことについて、それぞれ割合でたずねた。全体の平均では「勉強」3.6割、「友だちとの交遊」2.5割、「部活動」2.4割、「アルバイト」0.4割、「その他」1.1割であった。図1-1-5に「その他」を除いた項目の回答分布を示したが、「勉強」では「3割」(21.1%)、「友だちとの交遊」では「2割」(27.5%)を中心に分布している。しかし1割以下の比率に注目すると、「アルバイト」(91.1%)>「部活動」(44.0%)>「友だちとの交遊」(29.0%)>「勉強」(16.5%)であり、「アルバイト」に力を入れていなかったとする回答がきわめて多く、「0割」に「アルバイト」で80.8%、「部活動」で31.0%を占めた。高校生のアルバイトに関しては、校則で禁止されている学校があること、また回答者の出身高校のほとんどがいわゆる「進学校」であった\*1ことなどから、「アルバイト以外のことに力を入れていた」という大学生が多いことが考えられる。

また高校での「部活動」も3割程度が「0割」と回答しているが、これは「部活動には加入していたがほとんど活動していなかった」ケースと「そもそも部活動に入っていない」ケースが考えられる。部活動に参加することの効果、たとえば運動部系での体力の向上といった面や、協調性やストレス耐性の向上といった対人関係上のスキルにかかわる教育効果の検証は別途行う必要があるものの、このような教育機会を高校のときに受けていない(または選択していない)

大学生が一定割合存在することに注目したい。

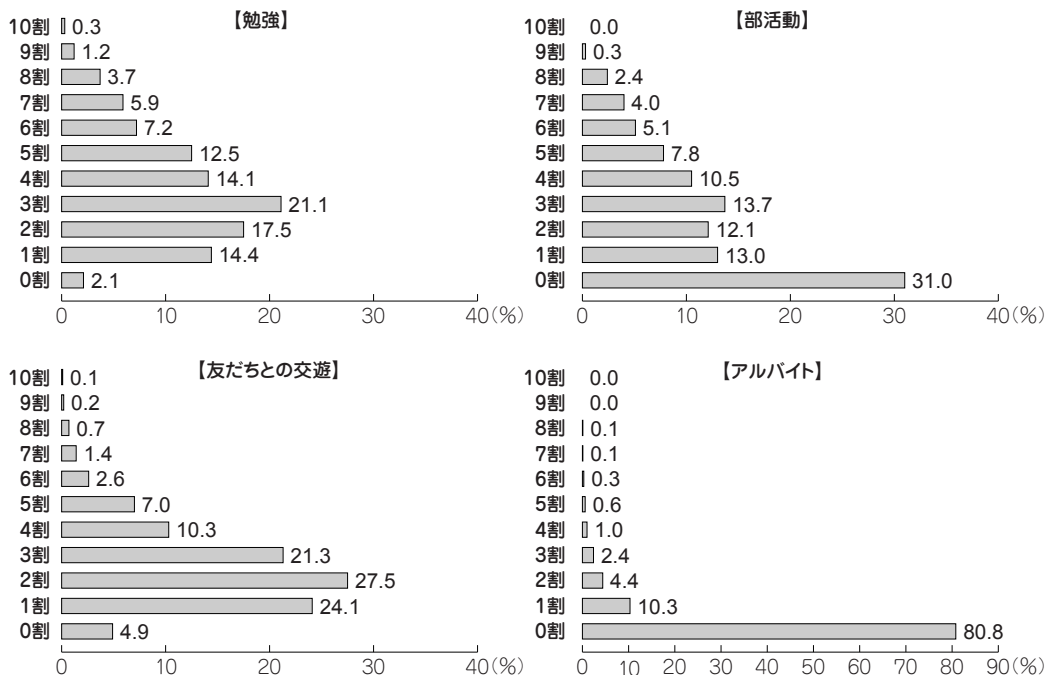
そこで出身高校種別での力を入れていたことの平均を表1-1-5に示した。サンプル数の多い「公立・3年制」「私立・3年制」「私立・中高一貫」を中心にみると、「部活動」で差がみられた(「公立・3年制」2.7割>「私立・中高一貫」2.1割>「私立・3年制」1.7割)。さらに「部活動」に限定して、その回答分布を表1-1-6に示した。「0割」に注目すると、「公立・3年制」25.2%<「私立・中高一貫」33.9%<「私立・3年制」48.7%であり、「私立・3年制」は全体に比べて17.7ポイント、「公立・3年制」とは23.5ポイントも差があることが確認できる。

あくまでも高校卒業者のうち「大学進学」をした高校生の主観的な回答であること、また卒業してからの時間的な間隔があることを十分に配慮する必要があるが、3年制の私立高校からの大学進学者と、他の出身高校種別、とりわけ3年制の公立高校からの大学進学者とでは高校生活での部活動の体験量が異なることが確認できる。3年制の私立高校からの大学進学者は、部活動よりもむしろ「勉強」や「友だちとの交遊」に力を入れていたことが考えられる。

くり返しになるが、出身高校種別での分析は、高校そのものの設置区分やタイプで特徴づけるものではなく、大学に進学した生徒の傾向をみるものである。大学への進学率が高校によって異なること、また部活動が盛んな3年制の私立高校も多く存在することにも留意する必要がある。

\*1 第1章第1節「卒業した高校について」(p.29、図1-1-3)を参照。

図1-1-5 高校生活で力を入れていたこと（全体）



注1) 高校生活で力を入れていたことのうち、上記4項目の回答分布を示している。「その他」は省略した。  
 注2) サンプル数は4,070名。

表1-1-5 高校生活で力を入れていたこと：平均（全体・出身高校種別）

	全体 (4,070)	公立		私立		国立	
		3年制 (2,521)	中高一貫 (25)	3年制 (712)	中高一貫 (705)	3年制 (50)	中高一貫 (26)
勉強	3.6	3.5	3.5	3.8	3.9	3.3	3.3
部活動	2.4	2.7	2.6	1.7	2.1	2.7	2.2
友だちとの交遊	2.5	2.4	2.4	2.7	2.7	2.4	2.7
アルバイト	0.4	0.4	0.0	0.5	0.2	0.4	0.3
その他	1.1	1.0	1.4	1.4	1.1	1.2	1.5

注1) 出身高校種別の「海外」「その他」は省略した。  
 注2) ( )内はサンプル数。

表1-1-6 高校生活で力を入れていたこと：部活動（全体・出身高校種別）

	全体 (4,070)	公立		私立		国立	
		3年制 (2,521)	中高一貫 (25)	3年制 (712)	中高一貫 (705)	3年制 (50)	中高一貫 (26)
10割	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
9割	0.3	0.4	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0
8割	2.4	2.7	0.0	2.0	1.6	4.0	3.8
7割	4.0	4.5	4.0	3.1	3.1	0.0	7.7
6割	5.1	5.8	8.0	2.9	4.7	6.0	3.8
5割	7.8	8.9	12.0	5.9	6.1	6.0	3.8
4割	10.5	12.5	12.0	5.5	8.8	10.0	7.7
3割	13.7	15.0	12.0	10.3	11.8	30.0	7.7
2割	12.1	12.4	12.0	9.8	14.0	10.0	15.4
1割	13.0	12.6	20.0	11.5	15.7	20.0	3.8
0割	31.0	25.2	20.0	48.7	33.9	14.0	46.2

注1) 高校生活で力を入れていたことのうち、「部活動」の回答分布を示している。  
 注2) 出身高校種別の「海外」「その他」は省略した。注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
 注4) 〃は全体よりも5ポイント以上、〃は10ポイント以上低いものを示す。注5) ( )内はサンプル数。

## 高校での学習の様子

高校での学習の様子についてたずねたところ、男子に比べ女子のほうが授業に積極的に取り組んでいたことがうかがえる。また学部系統別の「保健その他」では、高校の学習において計画的な学習や勉強方法の工夫などに積極的に取り組んでいたことが確認できる。

Q

学校や家での勉強の様子についてお聞きします。それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

今回の調査対象となった大学生に、高校での学習の様子についてたずねた。前項同様に、高校時代を振り返るという時間的な間隔があること、また高校卒業者のうち大学進学した高校生であることにも留意する必要がある。

図1-1-6で高校での学習の様子を示したが、6割を超えた項目として、「学校で出された宿題や課題をきちんとやっていた」(74.5%、「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%、以下同)、「授業でわからないことは、あとで自分で調べた」(65.0%)、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書いていた」(63.3%)、「勉強方法を自分なりに工夫した」(61.9%)が挙げられる。一方で4割を下回った項目として「予習をしてから授業を受けていた」(37.3%)、「自分の意思で毎日コツコツ勉強した」(36.6%)、「授業で習ったことは、その日のうちに復習した」(17.5%)があり、特に「授業で習ったことは、その日のうちに復習した」は2割に満たなかった。

次に性別での違いを表1-1-7に示したが、総じて女子での比率が高かった。男子と比べ10ポイント以上差がみられた項目として「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書いていた」(女子76.0%>男子54.7%、21.3ポイント差、以下同)、「予習をしてから授業を受けていた」(47.6%>30.5%、17.1ポイント差)、「授業でわからないことは先生に質問した」(55.6%>41.9%、13.7ポイント差)、「学校で出された宿題や課題をきちんとやっていた」(80.9%>70.2%、10.7ポイント差)が挙げられる。あくまでも高校を卒業してからの時間的な間隔があることを考慮しても、男子に比べ女子のほうが授業

に積極的に取り組んでいたことがうかがえる。

つづいて学部系統別での違いを表1-1-8に示した。全体と比べ10ポイント以上高い項目が目立つ学部系統は「保健その他」「教育」であった。特に「保健その他」では「計画を立てて勉強した」(「保健その他」54.5%>「全体」41.6%、12.9ポイント差、以下同)、「勉強方法を自分なりに工夫した」(74.2%>61.9%、12.3ポイント差)、「嫌いな科目も一生懸命勉強した」(58.3%>47.0%、11.3ポイント差)、「テストで間違えた問題をやり直した」(55.1%>43.9%、11.2ポイント差)、「自分の意思で毎日コツコツ勉強した」(47.4%>36.6%、10.8ポイント差)が挙げられる。「保健その他」には、医学部、歯学部、薬学部などの学部が含まれているが、これらの学部には在籍している大学生は、高校生のように学習への構えがしっかりしていたことがうかがえる。

では、高校と大学で学習への取り組みに違いがみられるだろうか。大学での授業への取り組み(第3章第1節、p.86を参照)と内容的に近い項目について、表1-1-9で比較した。厳密には同じ質問文で比較すべきところであるが、高校での学習が過去、大学での授業への取り組みが現在をたずねているため質問文の時制が異なること、また細かい表現・表記が異なる(質問文の対応については表1-1-9の注記を参照)ため、あくまでも傾向をつかむ参考値として示す。高校と比べ大学で比率が10ポイント以上高かった項目として、「自分の意思で毎日コツコツ勉強した」(高校36.6%<大学55.6%、19.0ポイント差、以下同)、「学校で出された宿題や課題をきちんとやっていた」(74.5%<87.4%、12.9ポイント差)が挙げられる。逆に大



学で10ポイント以上低かった項目として、「授業でわからないことは先生に質問した」(47.4% > 34.9%、12.5ポイント差)であった。

図1-1-6 高校での学習の様子(全体)

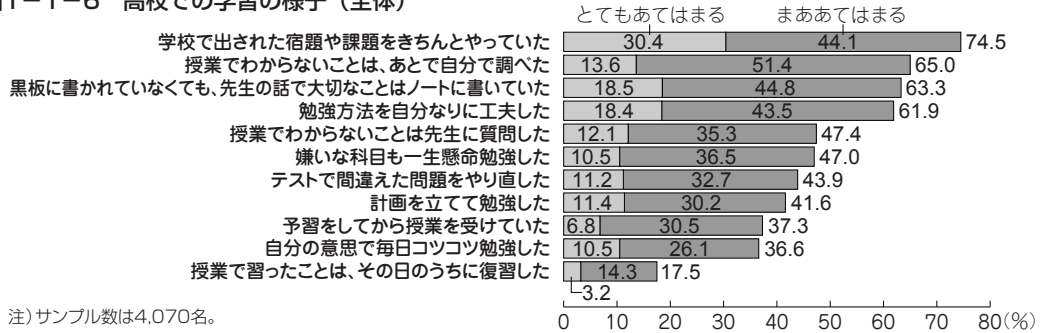


表1-1-7 高校での学習の様子(全体・性別)

	全体 (4,070)	男子 (2,439)	女子 (1,631)
予習してから授業を受けていた	37.3	30.5	47.6
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書いていた	63.3	54.7	76.0
授業でわからないことは先生に質問した	47.4	41.9	55.6
授業でわからないことは、あとで自分で調べた	65.0	62.6	68.8
学校で出された宿題や課題をきちんとやっていた	74.5	70.2	80.9
授業で習ったことは、その日のうちに復習した	17.5	16.8	18.7
勉強方法を自分なりに工夫した	61.9	59.7	65.2
テストで間違えた問題をやり直した	43.9	40.6	48.9
計画を立てて勉強した	41.6	39.1	45.6
自分の意思で毎日コツコツ勉強した	36.6	35.4	38.4
嫌いな科目も一生懸命勉強した	47.0	43.8	51.7

注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。注2) <>は5ポイント以上、<<>は10ポイント以上の差があるものを示す。注3) ( )内はサンプル数。

表1-1-8 高校での学習の様子(全体・学部系統別)

	全体 (4,070)	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)
予習してから授業を受けていた	37.3	47.7	35.0	31.5	32.8	39.6	44.8
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書いていた	63.3	71.5	63.1	53.2	64.8	66.4	71.4
授業でわからないことは先生に質問した	47.4	50.5	45.1	43.8	56.8	52.0	56.0
授業でわからないことは、あとで自分で調べた	65.0	67.2	62.8	64.9	72.8	70.7	65.7
学校で出された宿題や課題をきちんとやっていた	74.5	76.6	71.7	75.9	68.0	79.8	74.2
授業で習ったことは、その日のうちに復習した	17.5	22.5	16.5	15.0	18.4	19.8	18.2
勉強方法を自分なりに工夫した	61.9	63.9	60.6	57.5	56.8	74.2	76.9
テストで間違えた問題をやり直した	43.9	44.3	40.6	44.1	44.0	55.1	56.7
計画を立てて勉強した	41.6	41.6	41.5	36.9	40.0	54.5	49.7
自分の意思で毎日コツコツ勉強した	36.6	36.7	34.5	36.2	42.4	47.4	42.0
嫌いな科目も一生懸命勉強した	47.0	44.0	46.8	46.8	44.8	58.3	51.8

注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。注2) 学部系統別の「その他」は省略した。  
注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
注4) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上低いものを示す。注5) ( )内はサンプル数。

表1-1-9 学習の様子(高校と大学での比較)

	高校のとき (4,070)	大学の授業 (4,070)
予習してから授業を受けていた(注3)	37.3	32.5
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書いていた(注4)	63.3	< 72.9
授業でわからないことは先生に質問した(注5)	47.4	>> 34.9
授業でわからないことは、あとで自分で調べた(注6)	65.0	< 66.0
学校で出された宿題や課題をきちんとやっていた(注7)	74.5	<< 87.4
計画を立てて勉強した(注8)	41.6	< 41.8
自分の意思で毎日コツコツ勉強した(注9)	36.6	<< 55.6

注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。注2) <>は5ポイント以上、<<>は10ポイント以上の差があるものを示す。  
注3) 大学での質問項目は「授業の予習をする」。注4) 大学での質問項目は「授業中は黒板に書かれていない内容もノートにとる」。  
注5) 大学での質問項目は「授業でわからなかったことは先生に質問する」。注6) 大学での質問項目は「授業でわからなかったことは、自分で調べる」。  
注7) 大学での質問項目は「授業で出された宿題や課題はきちんとやる」。注8) 大学での質問項目は「計画を立てて勉強する」。  
注9) 大学での質問項目は「自分の意思で継続的に勉強する」。注10) ( )内はサンプル数。

## 高校での「総合的な学習の時間」などへの取り組み

高校のときの「総合的な学習の時間」やテーマ学習で、半数以上の大学生がインターネットや図書館を利用してあるテーマについて調べ、その結果について話し合い、文章にまとめるといった取り組みを体験している。しかし「調べたことを図や表にまとめた」「調べたことを人前で発表した」など、人前での発表を想定した取り組みは、「調べたことを文章にまとめた」よりもやや少ない結果となった。

### Q

あなたは高校の「総合的な学習の時間」やさまざまなテーマ学習（環境や進路に関することなど）で、次のようなことをしましたか。それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

高校での「総合的な学習の時間」が2003年度に導入（小・中学校は2002年度）され、はや6年目となった。今回の調査対象のうち、現役で入学した大学3年生が「総合的な学習の時間」の高校での導入一期生にあたる。学習指導要領では「総合的な学習の時間」のねらいとして、「(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。(3) 各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」\*1とされている。

そこで高校のときの「総合的な学習の時間」やテーマ学習での取り組み状況を図1-1-7に示した。半数以上の大学生が高校で取り組んだこととして、「インターネットを利用した」(72.1%、「よくあった」+「時々あった」の%、以下同)、「調べたことを友だちと話し合った」(61.8%)、「学校や地域の図書館を利用した」(59.3%)、「調べたことを文章にまとめた」(55.7%)が挙げられる。つまりインターネットや図書館を利用してあるテーマについて調べ、その結果について話し合い、文章にまとめるといった取り組みを、高校のときに半数程度が体験していることになる。しかし「ほとんどなかった」という回答に注目すると「友だちと協力して発表資料をまとめた」(58.2%)、「調べたこと

を図や表にまとめた」(56.2%)、「調べたことを人前で発表した」(54.4%)など、人前での発表を想定した取り組みは、「調べたことを文章にまとめた」よりもやや少ないことが確認できる。

そこで学年別に「ほとんどなかった」の比率を、表1-1-10に示した。先にも述べたが、現役で入学した大学3年生が「総合的な学習の時間」の導入一期生にあたるが、3年生以下と4年生でいくつかの項目で差がみられた。全体と比べ4年生で10ポイント以上高い項目として「インターネットを利用した」(「4年生」39.8%>「全体」27.9%、11.9ポイント差、以下同)、5ポイント以上高い項目として「調べたことを人前で発表した」(63.3%>54.4%、8.9ポイント差)、「調べたことを文章にまとめた」(50.9%>44.2%、6.7ポイント差)、「友だちと協力して発表資料をまとめた」(64.6%>58.2%、6.4ポイント差)が挙げられる。このことから、大学4年生では、高校のときに「調べたことを発表する」過程や機会が他の学年と比べ少なかったことが確認できる。

さらに出身高校種別での取り組み状況を表1-1-11に示した。サンプル数の多い「公立・3年制」「私立・3年制」「私立・中高一貫」を中心にみると、「私立・3年制」でやや比率の低い項目がみられた。なお「公立・中高一貫」「国立・3年制」「国立・中高一貫」で全体と比べ比率が高い項目が目立つが、サンプル数が少ないために今回の調査結果のみで考察することは難しいものの、学校群による違いとして今後検証が必要な観点と考えられる。

\*1 文部科学省『高等学校学習指導要領』（1999年）、第1章第4款の2より引用。

図1-1-7 高校での「総合的な学習の時間」などへの取り組み（全体）

	よくあった	時々あった	ほとんどなかった (%)
インターネットを利用した	31.7	40.4	27.9
調べたことを友だちと話し合った	16.6	45.2	38.3
学校や地域の図書館を利用した	14.8	44.5	40.7
調べたことを文章にまとめた	14.3	41.4	44.2
調べたことを人前で発表した	10.1	35.5	54.4
調べたことを図や表にまとめた	9.2	34.7	56.2
友だちと協力して発表資料をまとめた	8.8	33.1	58.2

注) サンプル数は4,070名。

表1-1-10 高校での「総合的な学習の時間」などへの取り組み：「ほとんどなかった」（全体・学年別）<sup>(%)</sup>

	合計 (4,070)	1年生 (1,017)	2年生 (1,013)	3年生 (1,017)	4年生 (1,023)
学校や地域の図書館を利用した	40.7	39.9	40.3	41.1	41.3
インターネットを利用した	27.9	<u>21.7</u>	<u>22.0</u>	27.8	<b>39.8</b>
調べたことを友だちと話し合った	38.3	35.8	35.3	39.5	42.4
調べたことを図や表にまとめた	56.2	53.2	55.0	55.4	61.1
調べたことを文章にまとめた	44.2	40.0	41.2	44.6	<u>50.9</u>
友だちと協力して発表資料をまとめた	58.2	54.9	54.0	59.1	<u>64.6</u>
調べたことを人前で発表した	54.4	<u>49.1</u>	51.3	53.7	<u>63.3</u>

注1) 「ほとんどなかった」の%。  
 注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
 注3) □は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。  
 注4) ( )内はサンプル数。

表1-1-11 高校での「総合的な学習の時間」などへの取り組み（全体・出身高校種別）<sup>(%)</sup>

	全体 (4,070)	公立		私立		国立	
		3年制 (2,521)	中高一貫 (25)	3年制 (712)	中高一貫 (705)	3年制 (50)	中高一貫 (26)
学校や地域の図書館を利用した	59.3	60.5	<u>68.0</u>	<u>52.2</u>	61.3	<u>68.0</u>	<u>69.2</u>
インターネットを利用した	72.1	70.8	<b>84.0</b>	73.1	74.1	<u>82.0</u>	<u>80.8</u>
調べたことを友だちと話し合った	61.8	61.2	64.0	59.1	64.3	<b>74.0</b>	<b>80.8</b>
調べたことを図や表にまとめた	43.9	44.3	<b>60.0</b>	39.0	44.0	<b>68.0</b>	<b>65.4</b>
調べたことを文章にまとめた	55.7	56.1	<u>64.0</u>	51.3	57.1	<b>74.0</b>	<b>69.2</b>
友だちと協力して発表資料をまとめた	41.9	41.9	<b>56.0</b>	38.6	43.1	<b>56.0</b>	<b>69.2</b>
調べたことを人前で発表した	45.6	46.2	<b>60.0</b>	<u>40.6</u>	46.1	<b>68.0</b>	<b>65.4</b>

注1) 「よくあった」+「時々あった」の%。  
 注2) 出身高校種別の「海外」「その他」は省略した。  
 注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
 注4) □は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。  
 注5) ( )内はサンプル数。

## 高校での学習時間

高校1・2年生のときの平日の学校外の学習時間は「ほとんどしなかった」が29.9%と最も多く、「1時間」までを含めると63.5%であり、高校1・2年生のときにほとんど勉強時間を確保していなかったことが確認できる。しかし出身高校種別の「私立・中高一貫」や学部系統別の「保健その他」「教育」では、高校1・2年生段階から学習時間を確保していた傾向がみられる。

### Q

高校1・2年生のとき、平日に学校での授業以外で、1日平均で何時間くらい勉強していましたか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

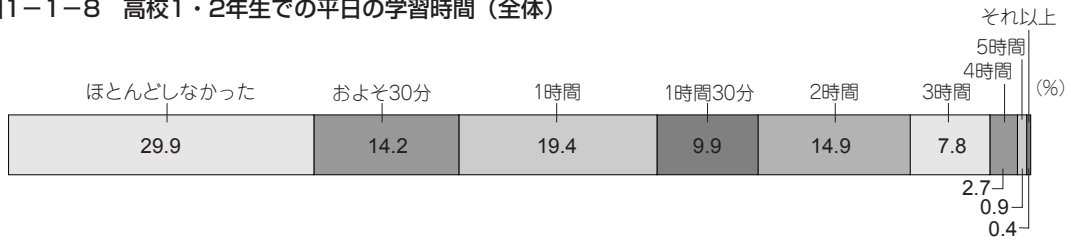
高校1・2年生のときの平日の学校以外での学習時間を図1-1-8に示した。全体では「ほとんどしなかった」が29.9%と最も多く、「1時間」までを含めると63.5%であり、高校1・2年生のときにほとんど勉強時間を確保していなかったことが確認できる。なお今回の調査結果は「大学進学」した高校生の傾向であって、高校生全体の傾向を示したものではないことに留意する必要がある。

次に出身高校種別での結果を表1-1-12に示した。サンプル数の多い「公立・3年制」「私立・3年制」「私立・中高一貫」でみると、平均での学習時間は「私立・中高一貫」(79.3分) > 「私立・3年制」(64.6分) > 「公立・3年制」(63.6分)であり、「私立・中高一貫」で多い結果となった。また「ほとんどしなかった」から「1時間」までの合計をみると、「公立・3年制」(65.6%)、「私立・3年制」(65.7%)、「私立・中高一貫」(56.1%)であり、「私立・中高一貫」での比率が「公立・3年制」「私立・3年制」に比べ10ポイント程度少なく、出身高校が「私立・中高一貫」の大学生は高校1・2年生のときに比較的勉強時間を確保していたことが確認できる。

つづいて学部系統別での結果を表1-1-13に示したが、平均での学習時間は「保健その他」が82.9分と全体と比べ15.6分多く、一方で「社会科学」で61.0分と全体と比べ6.3分少ない結果となった。また「ほとんどしなかった」から「1時間」までの合計をみると、「保健その他」で52.7%、「教育」で53.2%と全体の63.5%に比べ10ポイント以上少ない。「保健その他」には医学部、歯学部などの入試難易度の高い学部が含まれているため、高校1・2年生の段階から勉強時間を確保していた大学生が多いことがうかがえる。また「保健その他」「教育」の大学生では、大学進学を意識し始めた時期をみると、「中学生以前」から「高校1年生の頃」までの合計比率が全体の41.4%に対して、「保健その他」で51.6%、「教育」で52.5%と10ポイント以上高いこと<sup>\*1</sup>からも、高校の早い段階で大学進学を意識していたことが高校1・2年生の段階からの学習時間の確保につながったと推測される。

\*1 第1章第2節「大学進学を意識し始めた時期・受験対策を始めた時期」(p.43、表1-2-1)を参照。

図1-1-8 高校1・2年生での平日の学習時間（全体）



注) サンプル数は4,070名。

表1-1-12 高校1・2年生での平日の学習時間（全体・出身高校種別）

	全体 (4,070)						
	公立		私立		国立		
	3年制 (2,521)	中高一貫 (25)	3年制 (712)	中高一貫 (705)	3年制 (50)	中高一貫 (26)	
平均(単位:分)	67.3	63.6	68.4	64.6	79.3	90.6	99.2
ほとんどしなかった	29.9	30.9	28.0	32.6	25.1	24.0	15.4
およそ30分	14.2	15.1	12.0	14.0	11.6	8.0	7.7
1時間	19.4	19.6	24.0	19.1	19.4	12.0	30.8
1時間30分	9.9	9.6	0.0	7.9	12.1	18.0	15.4
2時間	14.9	14.6	28.0	15.4	15.3	14.0	7.7
3時間	7.8	7.2	4.0	6.7	10.4	16.0	11.5
4時間	2.7	2.1	4.0	2.9	3.8	8.0	3.8
5時間	0.9	0.8	0.0	0.7	1.8	0.0	3.8
それ以上	0.4	0.2	0.0	0.6	0.4	0.0	3.8

注1) 出身高校種別の「海外」「その他」は省略した。

注2) 平均は「ほとんどしなかった」を0分、「およそ30分」を30分、「1時間」を60分、「それ以上」を360分のように置き換えて算出した。

注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注4) 〃は全体よりも5ポイント以上、〃は10ポイント以上低いものを示す。

注5) ( )内はサンプル数。

表1-1-13 高校1・2年生での平日の学習時間（全体・学部系統別）

	全体 (4,070)						
	人文科学 (837)	社会科学 (1,553)	理工 (980)	農水産 (125)	保健その他 (283)	教育 (143)	
平均(単位:分)	67.3	73.7	61.0	66.3	73.7	82.9	73.9
ほとんどしなかった	29.9	27.7	33.7	28.5	31.2	23.0	21.7
およそ30分	14.2	12.3	14.9	15.4	11.2	12.4	16.1
1時間	19.4	20.4	18.2	21.3	16.8	17.3	15.4
1時間30分	9.9	9.4	9.7	9.0	8.8	12.4	17.5
2時間	14.9	16.6	13.9	14.6	17.6	15.9	17.5
3時間	7.8	8.1	6.2	7.6	8.0	14.1	9.1
4時間	2.7	3.1	2.3	2.4	4.8	3.5	2.8
5時間	0.9	1.6	0.8	0.9	0.8	0.7	0.0
それ以上	0.4	0.7	0.3	0.3	0.8	0.7	0.0

注1) 学部系統別の「その他」は省略した。

注2) 平均は「ほとんどしなかった」を0分、「およそ30分」を30分、「1時間」を60分、「それ以上」を360分のように置き換えて算出した。

注3) ○は全体よりも5ポイント以上高いものを示す。

注4) 〃は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。

注5) ( )内はサンプル数。

## 授業以外での学習機会

高校1・2年生段階では「どれもあてはまらない」が37.9%と最も多く、次いで「夏休みなどの長期の休みに、学校が行う補習授業を受けた」「朝や放課後に、学校が行う補習授業を受けた」が多い。何もしていないか、または学校が準備した学習機会を主に利用していたことがうかがえる。高校3年生段階では学校が提供する学習機会に加えて、予備校・学習塾の利用も増加し、その傾向は学部系統別の「保健その他」で顕著である。

### Q

あなたは学校の授業以外の勉強で次のようなことをしていましたか。高校1・2年生と高校3年生のときで、それぞれにあてはまるものすべてをお選びください。

学校の授業以外の学習機会について、高校1・2年生段階と高校3年生段階のそれぞれについてたずねた。図1-1-9に全体での結果を示したが、高校1・2年生段階では「どれもあてはまらない」が37.9%と最も多く、次いで「夏休みなどの長期の休みに、学校が行う補習授業を受けた」(32.1%)、「朝や放課後に、学校が行う補習授業を受けた」(23.2%)が多く、何もしていないか、または学校が準備した学習機会を中心に利用していたことがうかがえる。一方、高校3年生段階では「どれもあてはまらない」が20.4%と高校1・2年生段階と比べ17.5ポイント減少し、かわって「夏休みなどの長期の休みに、学校が行う補習授業を受けた」(44.2%、1・2年生と比べ12.1ポイント増、以下同)、「朝や放課後に、学校が行う補習授業を受けた」(35.4%、12.2ポイント増)、「集団指導の予備校・学習塾に通った」(30.3%、12.3ポイント増)、「夏休みなどの長期の休みに、予備校・学習塾に通った」(25.6%、11.9ポイント増)が10ポイント以上増加している。高校3年生段階になると、1・2年生段階から利用していた学校が提供する学習機会に加えて、予備校・学習塾の利用も増加している。

次に、表1-1-14で学部系統別での結果を示したが、「保健その他」では「どれもあてはまらない」が高校1・2年生段階では23.7%、高校3年生段階では9.9%といずれも全体に比べ10ポイント以上低く、さらに高校1・2年生段階から高校3年生段階の間で13.8ポイント減少していることが特徴的である。また「保健その他」では高校1・2年生段階から高校3年生段階の間で増加している項目も多く、「夏休みなどの長期の休みに、学校が行う補習授業を受けた」(1・2年生39.2%<3年生54.1%、14.9ポイント増、以下同)、「朝や放課後に、学校が行う補習授業を受けた」(27.6%<42.0%、14.4ポイント増)、「集団指導の予備校・学習塾に通った」(29.7%<41.3%、11.6ポイント増)、「夏休みなどの長期の休みに、予備校・学習塾に通った」(22.6%<35.7%、13.1ポイント増)で10ポイント以上増加している。「保健その他」には医学部、歯学部などの入試難易度の高い学部が含まれており、高校1・2年生のときから学習時間を確保していたこと\*1や大学進学を意識し始めた時期が比較的早いこと\*2なども影響して、複数の学習機会を積極的に利用してきた様子が見える。

\*1 第1章第1節「高校での学習時間」(p.37、表1-1-13)を参照。

\*2 第1章第2節「大学進学を意識し始めた時期・受験対策を始めた時期」(p.43、表1-2-1)を参照。

図1-1-9 授業以外での学習機会（全体）

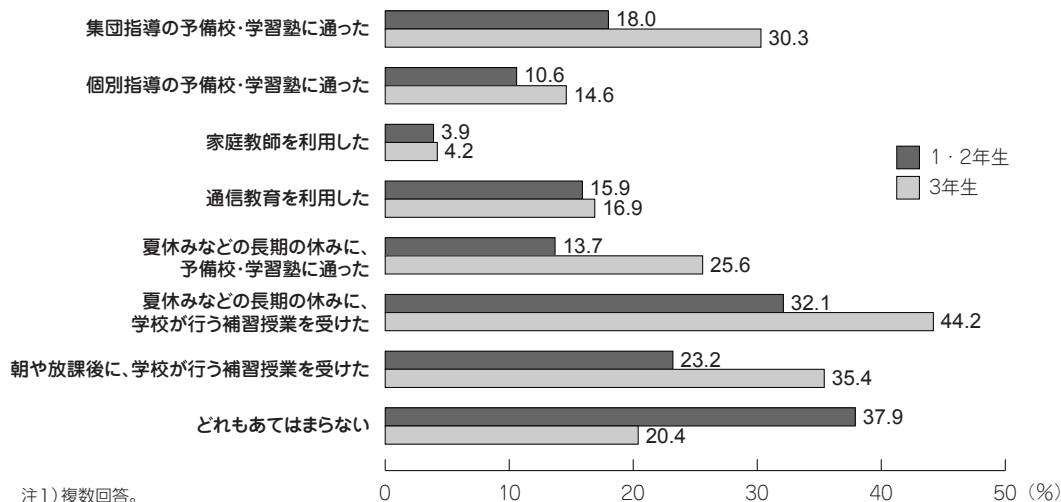


表1-1-14 授業以外での学習機会（全体・学部系統別）

	全体(4,070)		人文科学(837)		社会科学(1,553)		理工(980)	
	1・2年生	3年生	1・2年生	3年生	1・2年生	3年生	1・2年生	3年生
集団指導の予備校・学習塾に通った	18.0	30.3	14.8	27.0	17.2	29.7	18.9	30.3
個別指導の予備校・学習塾に通った	10.6	14.6	10.0	16.0	11.3	14.0	9.4	13.0
家庭教師を利用した	3.9	4.2	4.8	4.5	3.2	4.0	4.2	3.9
通信教育を利用した	15.9	16.9	18.0	17.6	13.4	14.4	14.4	17.0
夏休みなどの長期の休みに、予備校・学習塾に通った	13.7	25.6	12.1	23.8	12.9	24.9	13.6	24.2
夏休みなどの長期の休みに、学校が行う補習授業を受けた	32.1	44.2	32.5	44.7	29.3	40.5	31.5	42.9
朝や放課後に、学校が行う補習授業を受けた	23.2	35.4	23.2	36.8	23.1	32.3	22.0	34.8
どれもあてはまらない	37.9	20.4	38.4	20.7	40.3	23.5	40.0	20.8

	全体(4,070)		農水産(125)		保健その他(283)		教育(143)	
	1・2年生	3年生	1・2年生	3年生	1・2年生	3年生	1・2年生	3年生
集団指導の予備校・学習塾に通った	18.0	30.3	20.8	40.0	29.7	41.3	17.5	29.4
個別指導の予備校・学習塾に通った	10.6	14.6	11.2	16.0	11.3	15.9	12.6	18.2
家庭教師を利用した	3.9	4.2	5.6	4.8	4.2	6.7	3.5	2.1
通信教育を利用した	15.9	16.9	26.4	24.8	24.4	23.0	16.8	21.7
夏休みなどの長期の休みに、予備校・学習塾に通った	13.7	25.6	15.2	38.4	22.6	35.7	15.4	28.0
夏休みなどの長期の休みに、学校が行う補習授業を受けた	32.1	44.2	38.4	58.4	39.2	54.1	42.0	56.6
朝や放課後に、学校が行う補習授業を受けた	23.2	35.4	23.2	42.4	27.6	42.0	28.0	47.6
どれもあてはまらない	37.9	20.4	28.0	9.6	23.7	9.9	34.3	15.4

注1) 複数回答。  
 注2) 学部系統別の「その他」は省略した。  
 注3) <>は5ポイント以上、<<>>は10ポイント以上の差があるものを示す。  
 注4) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。  
 注5) ◯は全体よりも5ポイント以上、◯は10ポイント以上低いものを示す。  
 注6) ( )内はサンプル数。